



私は29歳ですが、組合員が減少している中で、我々が60歳になった時に給料はどうなっているのか、不安があります。若い人の加入を増やしたいと思っています。

3年担任が終了し、やっと3学期末に声をかけることができました。組合の必要性について十分理解できるので、考えておきたいとのことでありました。新学期になって、ベテランの組合員からも声をかけてもらって後押しになり、6月17日に加入届が出されました。

は常にもっています。昨年年度、分会長として「声かけ」や「対話」をしたと思うことはあっても、気持ちにゆとりがないというか、自分も周りの先生方も目の前の仕事でバタバタしてきて、声をかけることができない状況でした。



猶興館 藤松代議員 仲間

6月17日に加入届が到着。新しい仲間を迎えて

「集団的自衛権行使容認」の閣議決定に抗議！ 緊急集会に連日500人以上が参加

安倍内閣が7月1日に「集団的自衛権行使容認」の閣議決定を強行することがマスコミで報道される中、高教組や県労連が参加する憲法改悪阻止長崎県共同センターと、県平和運動センター、長崎地区労働争をさせない長崎1001人委員会の4者が共同して、6月30日、7月1日の2日にわたって、長崎駅前の高架広場で緊急集会を開催しました。

集会には2日とも500人以上の参加があり、高教組からも、30日の集会に佐世保・大村・諫早・長崎の各支部から合計14人、1日の集会に諫早・長崎の各支部から合計12人が参加しました。1日の集会では、高教組の小田委員長が、高教組の「怒りの龍」とりくみを紹介しながら「教え子を再び戦場に送らない」という決意を込めて発言しました。集会では、閣議決定が行われたための法整備の阻止など、安倍政権の「戦争する国づくり」にストップをかけるたたかいをいっそう強化することを確認し合いました。



6月30日の集会



7月1日の集会でリレートークを行う高教組の小田委員長

＜リレートークでの小田委員長の発言概要＞
長崎県高等学校教職員組合の執行委員長の小田です。安倍内閣の「集団的自衛権行使容認」の閣議決定に抗議して、3点述べます。

私は、高校で「政治・経済」や「現代社会」という社会科の科目を教えています。先日、日本国憲法の三大原理の一つ「国民主権」について20字程度でまとめるという課題を行いました。「国のあり方を決める最終決定権を国民が持つ」などとまとめました。「安倍首相が、今やっていることは？」と問いかけると、生徒から「国民主権とは違うのでは」という答えがありました。生徒たちも、今の状況に違和感をもっています。

私たち高教組は、「憲法」「教育」をめぐる安倍内閣の暴挙に対して、昨年末から5月にかけて、「怒りの龍」を作成し、反対の声を上げてきました。蛇踊りでなじみ深い龍は、中国の伝説では、日照りに悩む農民に慈雨をもたらすものとされていて、人民の味方で、心優しいものとされています。しかし、その龍が怒ることがある。それは伝説では龍のうろこの中でど元のうろこだけが逆さについていて、そこに触れたとき、怒りを爆発させる。いわゆる「逆鱗に触れる」の語源です。安倍内閣の暴挙は、まさしく長崎の龍の逆鱗に触れました。高教組の先生方の怒りを書き込んだ「怒りのうろこ」を身にまとった「怒りの龍」、長崎の龍は安倍首相を許しません。

「集団的自衛権行使の閣議決定」により、「教え子を再び戦場に送らない」という教職員が長年守ってきたの熱い思いが侵されました。子どもたちを戦場に送り出し、子どもたちが殺される、いや子どもたちが殺す場面に立たされることになりました。「怒りの龍」は今、目に涙をためて「涙の龍」になっています。しかし、泣いてはいられないのです。これで終わったわけではないのです。私たちは「教え子を再び戦場に送らない」ために改めて闘いを強めていかなければならないのです。「涙」を「怒り」にかえて、一緒に闘っていきましょう。

今年も七夕の かわいい来訪者が あいました



7月4日、今年も伊良木保育園のちびっ子たちが、自分たちで作った七夕の笹飾りを高教組の書記局に届けてくれました。さっそく、高教組会館3階の会議室前に飾っています。短冊に「組合員が増えますように」と書くこうかと思いましたが、神頼み(星頼み?)ではいけないと思ってやめました。子どもたちの健やかな成長を願いたいと思います。



生来の恥づかしがり屋で、人前で話すなど考えられない人生ではないが、高教組委員長を拝命したからにはしようがないとあきらめからの友人である馬場書記長は、そのことを分かっていて、集会に行く直前に「今日リレートークがあたります」と来た。原稿なしでしゃべったので、こんなまとまりはなかった。(小田)